



あっちの話

栃木から

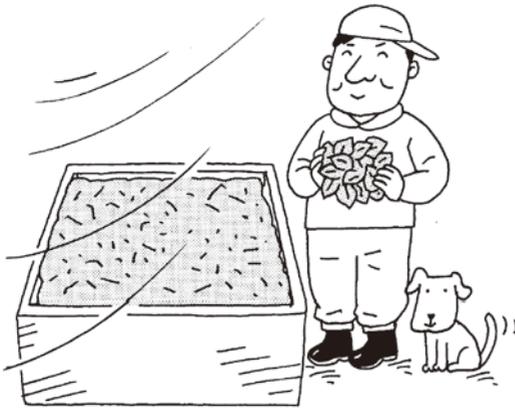
落ち葉堆肥はモミガラと鶏糞でコーティング

水野研介

宇都宮市のトマト農家、小平恭一さんは3反のハウスにまくための落ち葉堆肥を毎年自作しています。落ち葉堆肥を作る土場は交通量の多い道路や住宅地に隣接しているため、風で飛ばないように工夫しなければなりません。落ち葉は40ℓ袋、約600個分と非常に大量。ビニールで覆うにしても、とても大きなものが必要になってしまいます。そこで小平さんが活用しているのがモミガラと鶏糞です。

木枠に落ち葉を3分の1ほど敷き詰めたら、上から鶏糞、米ヌカをふりかけて、再度落ち葉を重ねていきます。3、4段の層ができて木枠がいっぱいになったら、その表面に鶏糞をふり、さらに上からしっかりと濡らしたモミガラを10cm、蓋をするように敷き詰めます。モミガラは濡れている間は重しになり、乾いていくうち

に鶏糞とカチカチに固まって落ち葉をコーティングするようになるので、春先の強い風にも飛ばされなくなりました。市街地のたくましい農家の知恵ですね。





宮崎から

廃油ストーブのおかげでマンゴーの重油半減

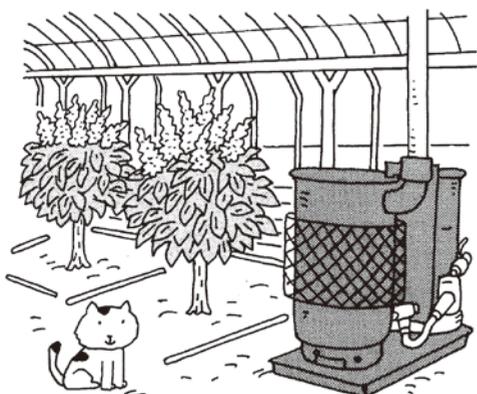
一圓仁

南国の延岡市といえどもマンゴーを育てるのは容易ではありません。課題となるのは加温のための燃料代。5aのハウスでマンゴーを栽培する小森徳義さんは、廃油ストーブ「eco太郎」とボイラー加温を併用して、重油使用量を半減させたそうです。

6月にマンゴーを出荷するために、1月から加温開始。まずは、温度調節可能な重油ボイラーで2日に1℃ずつ上げていきます。すると、1月末にはハウス内が20℃を超えるので、ここからは廃油ストーブも併用。この頃の最低気温は、およそ5℃なので、廃油ストーブで10℃加温したら、あとは重油ボイラーで微調整。20〜24℃を保つようにするのです。

廃油ストーブの燃料には使用済みのエンジンオイルや油圧オイル、甥が飲食店から集めてき

た天ぷら油の廃油などを活用しています。ただこの廃油ストーブ、5時間おきの給油が必要で、作業面にはまだ課題が残るそうです。改良を重ねながらも使っていきたい、と小森さんの挑戦は続きます。



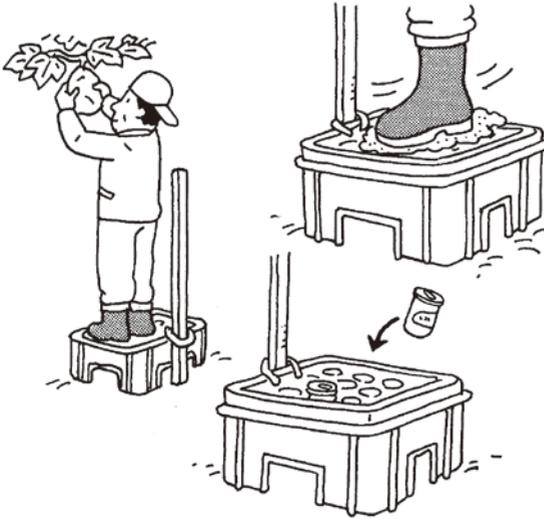


大分から

日田のブドウ産地でビールケースが大活躍

白井 藍

ブドウ産地の日田市^{ひた}では、ひっくり返したビールケースに角材の取っ手を1本つけた踏み台が大活躍。袋かけなどで使っています。ケースは軽いので持ち運びも便利。傾斜に合わせて接



地面を斜めにカットしたり、半分^なに切って高さ^たを調整している人もいます。

栗山忠司さんは高さ10cmにカットして、畑から出る時の靴の泥落としに使っています。足を置いてケースの網部分に靴底を擦りつけるだけなのでラクラクです。泥がたまっても、取っ手をつかんでトントン地面をたたくと簡単に取り除けます。

「土づくりは簡単にできんから畑から土を持ち出すな」という栗山さんの父親の教えも守れるし、車にもきれいに乗り込めるそうです。

台は椅子代わりにもなるので、作業中に腰かけて缶コーヒーで一服することもあります。ご近所の松岡義樹さんは空き缶をケースの瓶穴に収納。飲んだ缶をすっきり片づけて、作業に励んでいます。



福島から

酢しんじで鮮やか黒米のお赤飯

森潤一

添加物を一切使わずに色鮮やかな漬物を作り、道の駅などで販売する塙町はなわの安部トモ子さん。そんな「色つけ名人」に、今回は小豆いらずの赤飯の作り方を教えてもらいました。

色つけに使うのは黒米です。400gのコ



ビーの空き瓶に黒米を50gほど入れ、瓶の半分まで穀物酢を注いだらレンジで加熱。ぶくぶく沸騰してきたらレンジを止めてかき混ぜて再度加熱すると、黒米のきれいな赤色が出てきます。研いだもち米1升にこの赤い汁を注ぎ、1時間ごとにかき混ぜること2、3回で、もち米に赤色がきれいに染みこむそうです。

その後は、水を加えて一晚おき、翌朝、蒸します。途中もち米の芯が抜けてきたころ、細かく刻んで塩をまぶしたベニアズマと紫イモを加え、蒸しあがったら、一晚塩水に浸し茹でておいた青豆を混ぜ込んで出来上がりです。

黒米は少ししか使わなくても、この方法ならきれいな赤飯になります。2色のサツマイモと青豆も加わってとっても鮮やか。酢のおかげで普通の赤飯よりも日持ちもいいそうです。



静岡から

水道用の塩ビパイプで簡単手作りスコップ

江崎高弘

伊東市に移住してから農業に目覚めた秋葉光隆さん、眞貴子さんご夫婦に簡単便利な手作りスコップを教わりました。

材料は直径20mmの水道用塩ビパイプ（V P）。これを長さ25cmほどに切って、先を斜めにカットするだけです。もう一方にドリルで穴を開けてヒモを通し、柵や畑の脇のポールなど、いろんなところに引っ掛けて使いたいときにすぐ手に届くようにしています。軽くて先が細いので雑草をピンポイントに掘り取れるのがいいところ。「市販のスコップは大きく掘れちゃうし、取りに行くのも面倒で意外と不便」と思ってた開発しました。竹で作ったこともありませんが、2〜3回で傷んでしまったのでオススメしません。

秋葉さんはペンキで色を塗ってかわいくデコ

レーションもしています。みなさんも是非お試しくださいあれ！

